

【日本農業新聞 2014年10月13日付～10月19日付の紙面から】37回目  
<コメント>

TPPの農産物関税をめぐる日米交渉は、“危険水域”に入った。15日まで開いた日米実務者協議について、甘利明担当相は「かなり前進があった」と言う一方、「まだ大きなハードルが残っている」として、20日からの週にオーストラリアで実務者協議を再開する。これは、双方の歩み寄りではなく、日本側が関税引き下げに応じても「まだ不十分！」と米側に突き返されている図ではないのか。17日付記事で、「米国はホエー（乳清）についても関税撤廃など大幅な自由化を要求」と報じている。乳製品など他の重要品目も、いまだに大きな協議課題になっていて、しかも、要求として関税撤廃が突きつけられているというのである。日本の農家の利益は、国益とは別物というのであろうか。

<概要>

### ■自民・TPP国益を守る会 江藤会長に聞く 決議の順守求める／地方へ打撃与えぬ

【10月13日付3面】

自民党の議員連盟「TPP交渉における国益を守り抜く会」の会長に就任した江藤拓氏（衆・宮崎）はインタビューに応じ、TPP交渉について「（農産物の重要品目の聖域確保を求める）国会決議に沿った合意でなければならない」と、決議順守を政府に求める考えを強調した。「TPPが成長戦略の柱なら、国益を損ねる成長戦略はあり得ない。私は衆院の農林水産委員長でもある。その立場としても、決議を尊重するよう強く求めていく」。

### ■TPP交渉 日米実務者協議が再開／牛・豚肉関税焦点に

【10月13日付3面】

TPP交渉の農産物関税と自動車をめぐる日米の実務者協議が12日、再開した。農産物では米国産の牛・豚肉の関税とセーフガード（緊急輸入制限措置）などを焦点に、東京都内で数日間続ける。各国が25日から開く閣僚会合に向け、大きく動き出す可能性がある。日米両国は、「準備作業」を11日まで続けていた。日本側は米側に一定程度歩み寄る姿勢があると判断。12日からは、米側で農産物関税の協議を担当するベッター首席農業交渉官らが参加して協議を再開した。

### ■TPP日米実務者協議 一定の進展 警戒必要／牛・豚で「議論かみ合う」

【10月15日付1面】

TPP交渉の農産物関税と自動車をめぐる日米実務者協議が14日、引き続き東京都内で行われた。牛肉と豚肉のセーフガードの発動条件を中心に議論し、協議は一定進展しているもよう。オバマ米大統領が目指す11月の大筋合意に向けて交渉会合が立て続けに予定されており、日本が譲歩しないか警戒が必要だ。農産物関税では、セーフガードをめぐる突っ込んだやりとりを交わし、「議論がかみ合いだした」（交渉関係者）もよう。

### ■「所得増大に全力」／衆参農水委で農相所信 TPP決議順守

【10月15日付3面】

西川公也農相は14日、衆参両院の農林水産委員会で所信を表明した。TPP交渉の「早期妥結」を念頭に、「(国会)決議が守られたとの評価をいただけるよう、政府一体となって全力を尽くす」と述べた。交渉の重大局面を迎えて妥結を念頭に入れたとも受け取られかねない言いぶり。決議との整合性を具体的にどう取るかは明言しなかった。

### ■TPP日米協議終了 実務者で一定進展／閣僚会合へ緊迫場面

【10月16日付1面】

TPP交渉の農産物関税や自動車をめぐる日米実務者協議が15日、終了した。25日からオーストラリアで12カ国の閣僚会合が開かれるのを前に、両国は来週、同国で実務者協議を再開する。協議後、大江博首席交渉官代理は「着実な成果があった」と語り、一定の進展があったことをにじませた。一方で「まだとても終わりには程遠い」との認識も示した。オバマ米大統領が目指す11月の大筋合意に向け、両国はぎりぎりまで打開を探る考えだ。

### ■ホエー自由化要求／TPPで米国 日本は拒否 脱脂粉乳の代替

【10月17日付1面】

TPP交渉をめぐる日米協議で、米国が乳製品の一種、ホエー（乳清）について、関税撤廃など大幅な輸入自由化を求めていることが分かった。ホエーは脱脂粉乳の代替品としても使われ、輸入が拡大すれば国内の乳製品の需給に悪影響を与える恐れがある。このため日本側は拒否している。交渉筋によると、ホエーの自由化は、10～15日の日米実務者協議などで米側が要求した。

### ■韓国識者招き 東京で勉強会／TPP阻止国民会議

【10月18日付2面】

野党議員や有識者でつくるTPP阻止国民会議（代表世話人＝原中勝征・日本医師会前会長）は17日、韓国の識者を招き、東京都内で勉強会を開いた。TPP交渉への参考として、米韓自由貿易協定（FTA）が農業や生活に与えつつある影響などを報告。米韓FTAでは米国産牛肉の関税を15年かけて撤廃する。韓国協同組合研究所の金奇泰所長によると、外食産業で輸入牛肉使用が増え、韓国の畜産農家の収益性が下がっているという。

### ■TPP日米実務者協議 「前進も課題残る」／甘利担当相 来週再開の予定

【10月18日付3面】

甘利TPP担当相は17日の閣議後会見で、東京都内で15日まで行われたTPP交渉の農産物関税と自動車をめぐる日米実務者協議について、「かなりの前進があった」と前進を強調する一方で「まだいくつか大きなハードルが残っている」と語り、実務者間でさらに打開を目指すべきとの考えを示した。日米実務者協議は来週再開する予定で、25～27日の閣僚会合に向けて農産物関税の協議も加速しそうだ。

### ■TPP 11月大筋合意 警戒／きょうから首席交渉官会合

【10月19日付1面】

T P P 交渉参加12カ国による首席交渉官会合が19～24日の6日間の日程で、オーストラリア・キャンベラで始まる。25～27日に同国シドニーで開かれる閣僚会合を前に、難航するルールや物品の関税協議で対立の解消を事務レベルで目指す。キャンベラでは日米間の農産物関税と自動車をめぐる実務者協議も再開する。首席交渉官会合は、オバマ米大統領が目指す11月の大筋合意に向けた一連の会合の始まりで、交渉を主導する日米間の合意圧力も強まりそうだ。

### ■WTO貿易交渉委 「円滑化」対立続く／バリ島合意の実施協議波及／アゼベト事務局長「打開の糸口見えぬ」

【10月19日付3面】

世界貿易機関（WTO）のアゼベト事務局長は16日、ドーハ・ラウンド（多角的貿易交渉）を統括する貿易交渉委員会を開いた。7月に見送られた貿易円滑化協定の採択が、途上国の食料調達用補助金の扱いを削減対象外とするルール改正を求めるインドの思惑と絡んでいることを踏まえ、「打開の糸口がまだ見つからない」と現状を総括。妥結の道筋を示す作業計画についても、「期限の年末までにまとめるのは難しい」と厳しい認識を示した。

以上